

2014年2月16日(日)、 福島空港に壁画(陶板レリーフ)が誕生します

日本画家 堀文子先生による陶板レリーフ「ユートピア」

■ 設置場所： 福島空港ターミナルビル1階ロビー
福島県石川郡玉川村北須釜はばき田21

公益財団法人 日本交通文化協会(所在地:東京都千代田区有楽町1-1-3東京宝塚ビル 理事長:滝 久雄 /以下、当協会)は、ゆとりと潤いのある文化的公共空間の創造を目的に、全国の駅や空港をはじめとするパブリックスペースにアート作品を制作・設置する事業を推進しています。

そして、本格的な活動開始から35年目となる2014年2月には、当協会の通算500作目となるパブリックアート作品が福島空港ターミナルビル1階ロビーに誕生いたします。
(現在、当協会のクレーレ熱海ゆがわら工房(所在地:静岡県熱海市泉230-1))で制作中)

このパブリックアート作品「ユートピア」は、日本を代表する日本画家・堀文子先生の原画、制作監修による陶板レリーフで、福島の自然の中で育まれる命の楽しい集い「ユートピア」が、日本古来の伝統的素材である「陶」で表現されています。

この壁画は、東日本大震災からの復興を目指す多くの方々への、堀文子先生からのエールであり、この壁画が、福島復興のシンボルのひとつになることを願っています。

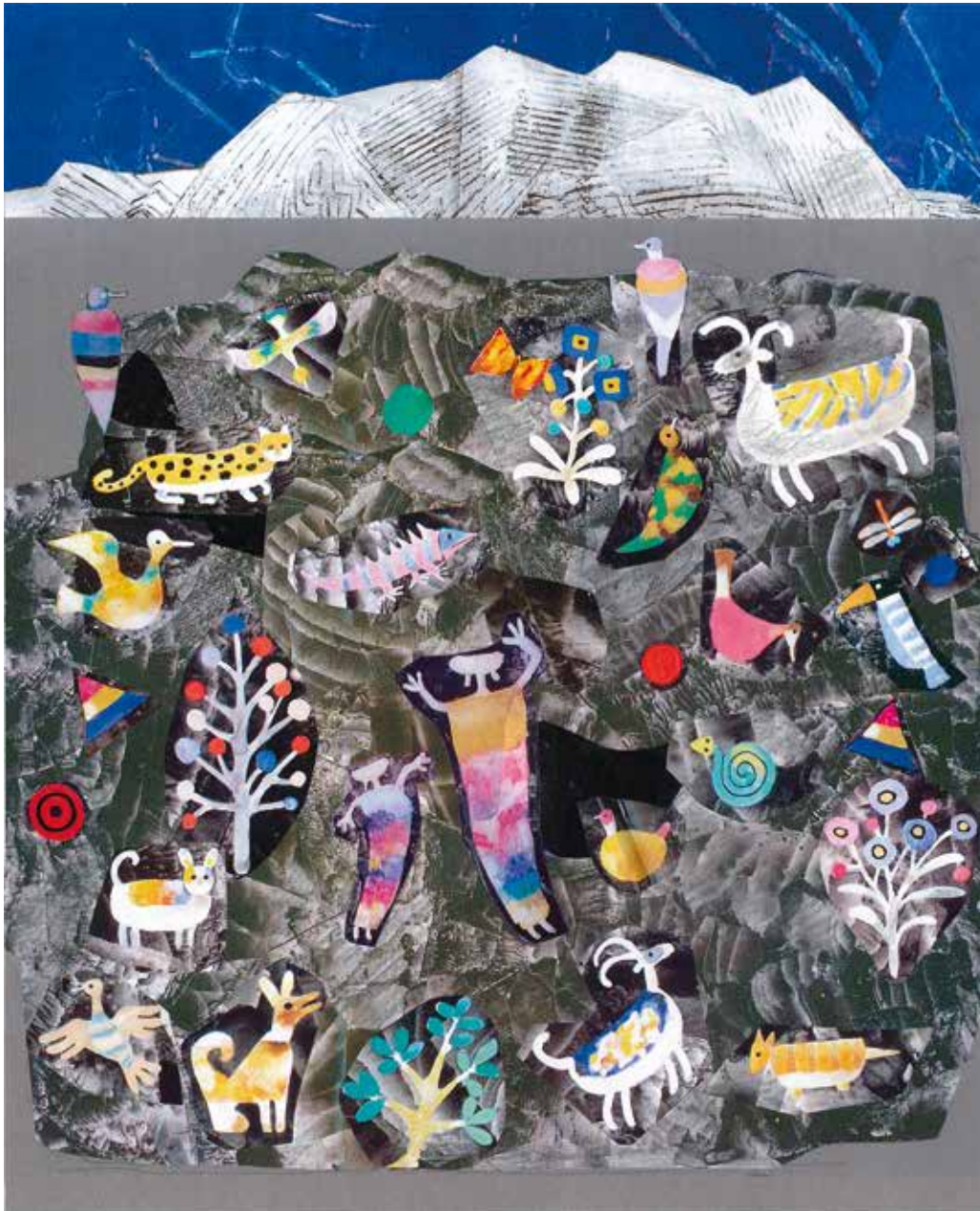
完成除幕式は、2014年2月16日(日)午前に福島空港ターミナルビル1階ロビーに於いて開催されます。
また、家族で楽しめる「アート」と「食」のイベントも併催予定です。



この陶板レリーフは、財団法人 日本宝くじ協会の「社会貢献広報事業」の助成を受けて整備されます。

陶板レリーフの詳細

- ・ 規模:幅 約4.5m 高さ 約5.5m
- ・ 日本を代表する日本画家・堀文子先生が原画制作、制作監修を行っています。
- ・ 作品全体は約590の陶板ピースから成っています。
- ・ 当協会のクレーレ熱海ゆがわら工房(所在地:静岡県熱海市泉230-1)で、10名の陶板レリーフ職人が約10ヶ月かけて制作します。



陶板レリーフ「ユートピア」原画

地球はすべての生命のもの。
すべての生命が仲良く集い、皆が楽しく生きている。
ここに、豊かな命が育まれている。 ————— 堀 文子

パブリックアート作品「ユートピア」について

「うつくしま福島」といわれるほどに、福島は日本の原風景を残した、美しく豊かな自然に恵まれています。そして、四季折々に繰り広げられる自然の営みの中に暮らす人々は、豊穡な文化、産業を生み出しました。

このパブリックアート作品では、福島の中で育まれる命の楽しい集い「ユートピア」(楽園)が、日本古来の伝統的素材「陶」を用いて表現され、堀先生の作品が持つ独特の世界観と「陶」の味わいとが相まって、優しく、あたたか味のある空間が生まれています。

このパブリックアート作品「ユートピア」は、東日本大震災からの復興を目指す多くの方々への、堀文子先生からのエールであり、この壁画が、福島復興のシンボルのひとつになることを願っています。



陶板レリーフ「ユートピア」原画

堀 文子(ほり ふみこ)

1918年東京都生まれ

日本を代表する日本画家

- ・ 女子美術専門学校(現・女子美術学校)師範課日本画部卒業
- ・ 創画会の結成に参画
- ・ 多摩美術大学日本画家教授として日本画の指導にあたる(1974—1999年)
- ・ 自由である為に真剣に孤独と向き合い作品を描き続けている
- ・ 世界を旅して82歳の時にヒマラヤ山脈のブルーポピーを描く
- ・ 花、鳥など自然の中に存在する命がモチーフの作品が多く「花の画家」と呼ばれることもある
- ・ 近年は微生物や海中に生きる命をモチーフに制作している
- ・ 自然の動植物や日本の文化に対する好奇心を失わず、95歳の今も制作を続けている



陶板レリーフの制作について

この陶板レリーフは、2013年4月に原画制作①が始まり、原寸図作成→造形②③→切り込み→裏削り→整形→乾燥→色決め(釉決め)④→素焼き⑤までが完了し、2014年2月16日(日)のお披露目に向けて、現在、クレーレ熱海ゆがわら工房で施釉、焼成、仮組み作業が行われています。

※熱海ゆがわら工房での取材もお受けいたします。お気軽に当協会(下記)までお申し込みください。



クラーレ熱海ゆがわら工房

■ 所在地：静岡県熱海市泉 230-1

公益財団法人 日本交通文化協会は、芸術文化の振興および環境芸術推進活動の制作部門として、熱海と信楽に工房を擁し、ステンドグラス、陶板レリーフ、モザイク、彫刻、モニュメントの制作をはじめ、パブリックアートの研究や制作支援を行っています。

建築家・隈研吾氏の設計によるクラーレ熱海ゆがわら工房は、釉薬研究施設、焼成サンプル室、ステンドグラススタジオ、ショールームなども完備され、数多くのアーティストとのコラボレーションが展開される、第一級のパブリックアートの創造拠点です。



⑨



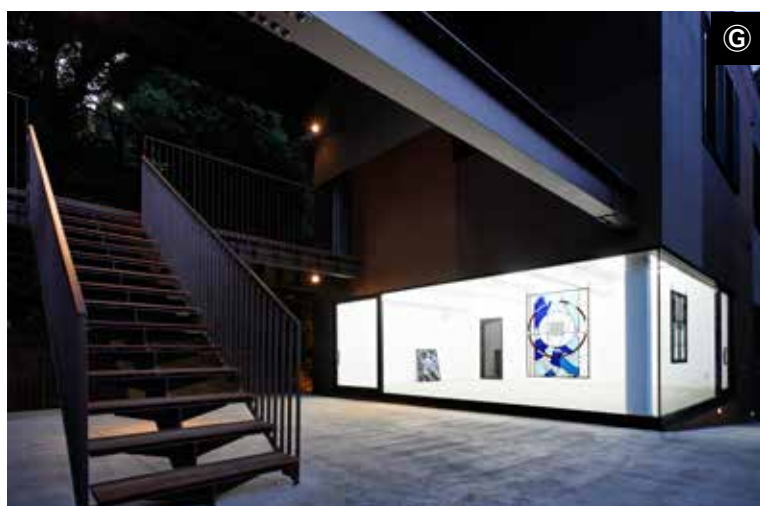
⑥



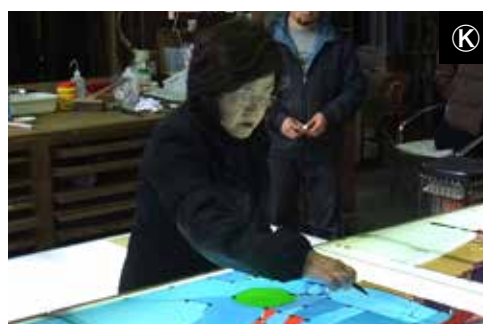
①



④



⑦



⑧

⑥⑦ クラーレ熱海ゆがわら工房

⑨ 堀文子先生(陶板レリーフ) ① 宮田亮平先生(陶板レリーフ) ④ 野見山暁治先生(ステンドグラス) ⑧ 佐野ぬい先生(ステンドグラス)

※「クラーレ」は、ラテン語で「創造」を意味する、当協会の文化的公共空間創造推進活動の総称です。

パブリックアートの普及・振興事業について——日本に「1%フォー・アート」の実現を

東京駅に第1号のステンドグラス「天地創造」(原画:福沢一郎)を設置して以来、当協会は、34年間に499点のパブリックアート作品を全国の鉄道駅や空港をはじめ、学校、病院、ホールなどの公共空間に制作・設置してきました。

また、以前からパブリックアート普及の重要性を認識し、様々な活動をしてきました。

その一環として、2000年に故平山郁夫画伯、住田正二氏(当時JR東日本相談役)、芸術界、学界、運輸省(現国土交通省)、運輸業界の代表で構成する「パブリックアートに関する特別委員会」を設置、そこでの議論を「パブリックアートの振興に関する提言」としてまとめました。そして、当時の運輸大臣、文化庁長官、経団連会長並びに主要美大学長ら各界の要人あてに積極的な提言活動を行いました。

当協会のパブリックアートの普及・振興事業の指標としているのが、美術評論家 ハーバート・リード(1893-1968)の著書「芸術の意味」に書かれた次の言葉です。

今、我々に欠けているのは芸術家ではない。

大衆である。

芸術に意識を持つ大衆ではない。

無意識的に芸術的な大衆である。

人々が普段の生活の中で芸術に親しむことにより、社会のモラルが高まり、その環境の創出にパブリックアートの意義があり、価値があるのだと考えます。

高い文化力は国を豊かにします。そして、モノづくりに付加価値をもたらす源泉となり、強い経済をも育てます。

当協会は、社会共通の価値観としての芸術文化の振興を日本に根づかせるために、公共事業費の1%を芸術・文化に支出することを義務づける制度「1%フォー・アーツ」の実現を願っています。



天地創造 福沢一郎 JR東京駅 ステンドグラス 1972



豊洲今昔物語 宮田亮平 有楽町線豊洲駅 陶板レリーフ 2013



蜜柑 ミカン みかん 田窪恭治 松山空港 ステンドグラス 2013